二〇一四年一月一〇日

棚の上に福笹揺るる電車かな　菜々

初句会花びら餅に舌鼓　よう子

二〇一四年一月九日

弾丸見せて自慢話や牡丹鍋　うつぎ

帯を見て買ひし新刊読始　かかし

二〇一四年一月八日

吟行の一期一会や古日記　さつき

百寿なる師を寿ぎて初句会　はく子

二〇一四年一月七日

眼鏡の度あはぬ言ひ訳歌がるた　うつぎ

冬日燦畳に湯気の影をどる　さつき

二〇一四年一月六日

飛行雲ぐんぐん伸びる初御空　うつぎ

初旅の温泉に四肢のばす至福かな　ともえ

消息をほ句に詠まれし賀状かな　満天

六日早やハローワークに人溢れ　うつぎ

出初め式五輪の色の水を撒く　あさこ

二〇一四年一月五日

青空に立ち尽くすごと枯蓮　ひかり

襖絵の虎の眼光淑気満つ　宏虎

二人居に戻りし今朝は寝正月　雅流

木の駅舎降りてふる里冬銀河　菜々

二〇一四年一月四日

広々と写経道場淑気満つ　満天

毎日句会みのる選・二〇一四年一月一二日